

Art Farm

—地域がはぐくむアートネットワークの豊穣—

神戸ミュージアムロードを、ミューズの種子を多彩に育む**<豊穣の川>**と見立てたい。路の周りへ水が沁みわたってゆくように、周辺の空き地や駐車場、高架下などにその滋養が行き渡り、各所に**<アートの種>**が芽吹き、広がってゆく。このミュージアムロードが、**<地域のアート・ファーム=芸術の畑>**を折り広げる豊かな水源となることを、思い描いておきたい。

本提案ではミュージアムロードを核とし、次の5つの要素を段階的に計画。それらが有機的に関連しながら、地域全体をアートで潤していく。

A. Stream ストリーム

ミュージアム・ロード全体を**ストリーム（流れる川）**と見立て、そこから周辺に、様々なアートや地域活動が広がってゆく。

B. Seed Plaza シードプラザ

ミュージアム・ロード周辺に点在する、空き地や遊休地を利用した小広場。そのそれぞれに、**芸術の種=シード**が埋め込まれる。

C. Urban Curtain アーバンカーテン

ミュージアムロードを横断する、高架下を利用した施設群。

D. Folly フォリー

ミュージアムロード周辺の公園に計画される、小さな建築群。

E. Park Lounge / Muse Terminal パークラウンジ / ミュゼ・ターミナル

王子公園となぎさ公園に計画される、アートギャラリーやカフェ等の複合施設。**王子公園の<パークラウンジ>**を出発点、**なぎさ公園の<ミュゼ・ターミナル>**を終着点の波止場に見立てる。

D. Folly フォリー

休憩所や東屋、小規模なギャラリー。ルーフガーデン等を組み込むことで、**上部からの眺め**を作り出す。

E-2. Muse Terminal ミュゼ・ターミナル

なぎさ公園に新設されるコア施設。ストリームの終点をなすターミナルとなる。コア施設として、**様々な回遊性**を生み出す。

E-1. Park Lounge パークラウンジ

王子公園に新設されるコア施設。ストリームの起点をなし、**アート巡りのスタートライン**となる。

A. Stream ストリーム

ストリームには、**アート・インデックス**となる青いボードが配され、道ゆく人々のガイドとなる。

B. Seed Plaza シード・プラザ

各所に散らばるシード・プラザには、**アートフラッグ**というユニットが設置され、それらが有機的に関連し、**アートの畑**を作る。

C. Urban Curtain アーバン・カーテン

ここでは、**小ステージやショウウィンドウ、ワークプレイスやラーニング・commons**などが配され、それらが軒を連ねる。



アートボードが水の流れるように並ぶミュージアムロード

横尾忠則現代美術館

王子公園

垂直緑化

ミューズの小径

JR 灘駅

阪神岩屋駅

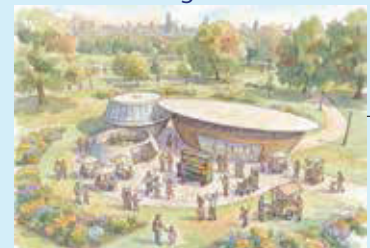
BB プラザ美術館

アートインデックス

なぎさ公園

兵庫県立美術館

E-1. Park Lounge パークラウンジ



ミュージアムロードの起点となる、王子公園内のコア施設

A. Stream ストリーム



アクティビティの流れに見立てた、母体としてのミュージアムロード

B. Seed Plaza シードプラザ



ストリームの周辺の空き地等に散りばめられた小広場

C. Urban Curtain アーバンカーテン



高架下を利活用した、連続立体スペース

D. Folly フォリー



街の拠点となるレストスペースや東屋群。パブリックアートの展示場

E-2. Muse Terminal ミュゼ・ターミナル

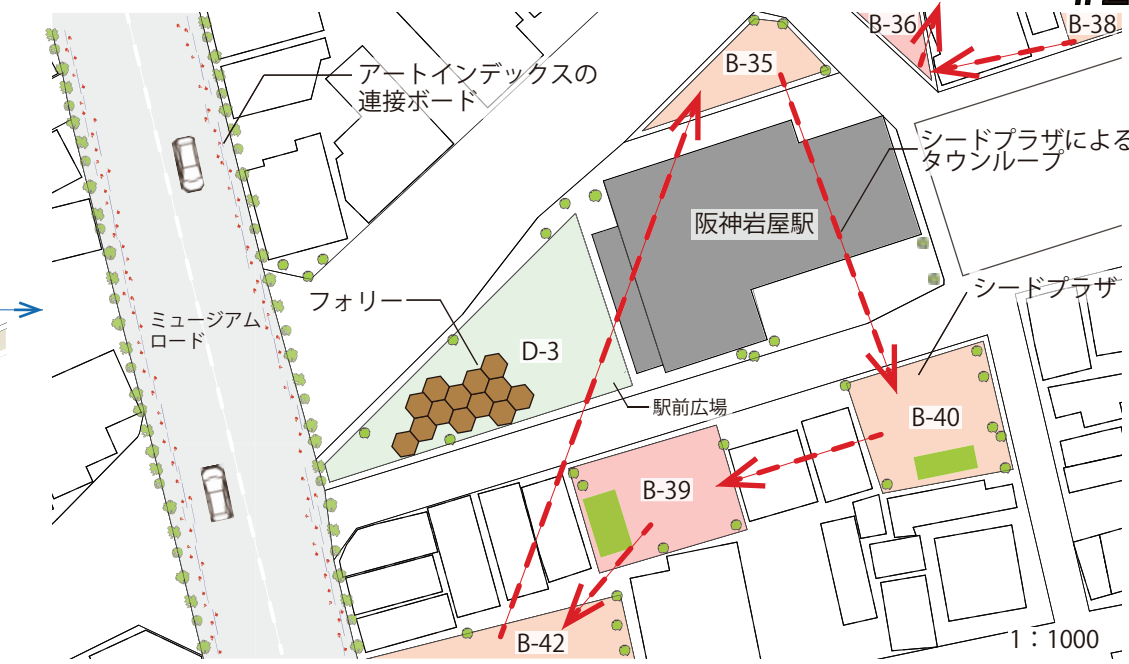


ミュージアムロードの終点をなす、なぎさ公園に新設されるコア施設

ミュージアムロード周辺の全体ビジョン



ミュージアムロードの部分平面イメージ



本計画ではアートを通じた回遊性を引き出すため、<ラウンジャー>(遊歩者) という概念を提案する。ミュージアムロード＝ストリームを中心に、小広場＝シード・プラザの小さなネットワーク群が形成され、様々な<タウン・ループ>＝近隣の小さな回遊単位を作り出す。

街のグランドデザインの考え方

- 1. グリーンインフラの立体化
- 2. タウンループとグランドループ
- 3. パーミアビリティとナイトスケープ



ランドスケープ計画として、空き地や上部方向への緑化を考慮する。それにより、グリーン・インフラの立体化を目指す。街全体に大小の回遊性を用意する。ミュージアムロードを繋ぐ<グランド・ループ>と、小広場群による<タウン・ループ>を計画。

シード・プラザのマトリックス

	長方形	線型	方形S	方形L	三角形	中庭型	多角形
I	3	10	4	14	2	7	1
II	5	11	12	17	25	19	8
III	6	13	15	33	29	22	9
IV	23	24	20	40	35	28	16
V	30	31	21	43	36	34	18
VI	32	42	27	46	48	37	26
VII	38	45	39	47	49	41	44

街全体に「種」として埋め込まれたシードプラザは、形態に応じて分類され、それらがマトリックス＝小広場の分類表を形成する。

離散的に配されたこれらのシードプラザ群が、場所の特性に応じて星座のようにつながる。

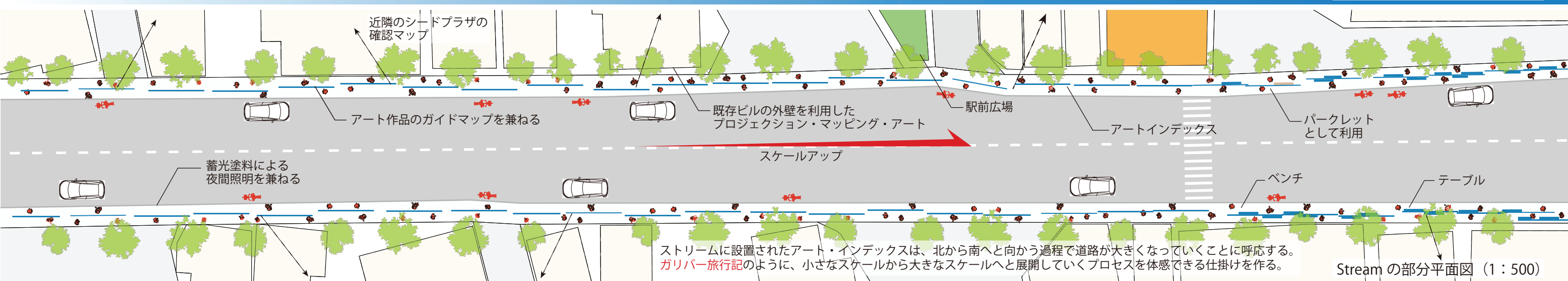
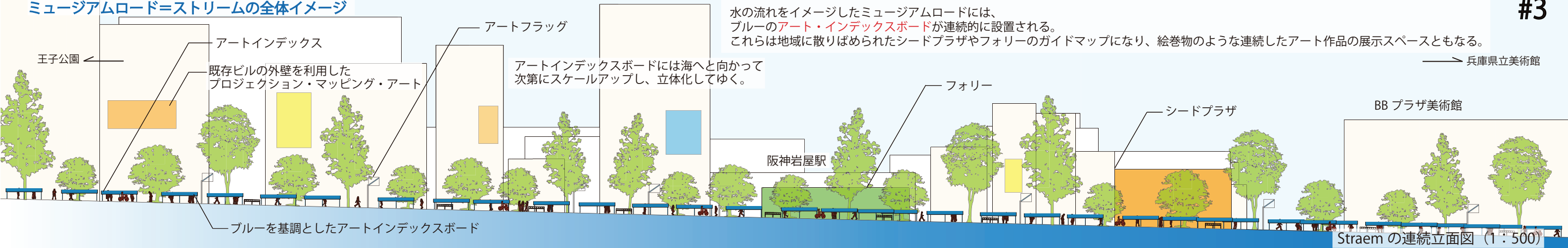
それにより重層的な繋がりを見出し、ラウンジャー＝遊歩者が街を楽しむガイドラインとなる。



シードプラザとアートフラッグ



ミュージアムロード=ストリームの全体イメージ



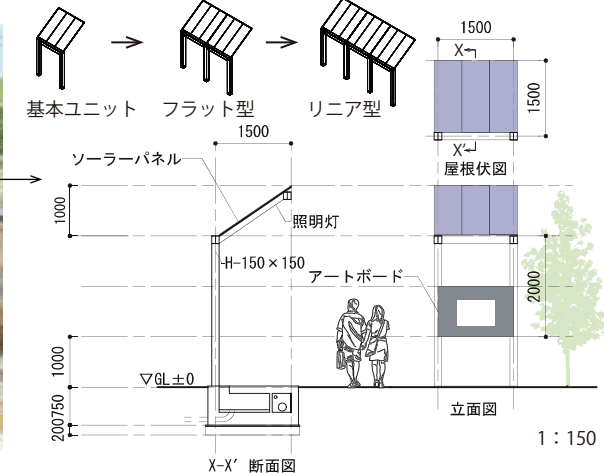
水の流れをイメージしたミュージアムロードには、ブルーの**アート・インデックスボード**が連続的に設置される。これらは地域に散りばめられたシードプラザやフォーリーのガイドマップになり、絵巻物のような連続したアート作品の展示スペースともなる。

ストリームに設置されたアート・インデックスは、北から南へと向かう過程で道路が大きくなっていくことに呼応する。**ガリバー旅行記**のように、小さなスケールから大きなスケールへと展開していくプロセスを体感できる仕掛けを作る。

各要素の関連イメージ



シードプラザに設置されるアートフラッグ



ストリームに接続するシードプラザ、フォーリー、アーバンカーテンが、有機的に関連づけられる。

シードプラザには、アートフラッグというユニットを設置。これは街灯となり、アートパネルが設置される。

街全体の将来計画イメージ

	2026	2030	2040	2050		
インフラ	A ストリーム	街路沿いのリサーチ	10箇所の設置	30箇所の設置	50箇所の設置	
小広場	B シードプラザ	街区のリサーチ	10箇所の抽出	ユニット設置	30箇所の抽出	ユニット設置
	C アーバンカーテン	高架下のリサーチ	プログラムの選定	垂直緑化	サードプレイスの計画	
建築	D フォーリー	リサーチ	2箇所の計画	4箇所の計画	計6箇所の計画	
	E パークラウンジ ミューゼ・ターミナル	リサーチ	パークラウンジの計画	ミューゼ・ターミナルの計画		

ミュージアムロードを起点に、それぞれの要素が育ち、醸成されていく。



D. 地域を彩るフォーリー



公園や空き地には、フォーリー（東屋的な工作物）が建てられる。これらは、シードプラザを繋ぐサテライト施設となる。

E-1. パークラウンジ



王子公園内に建てられる施設

E-2. ミューゼ・ターミナル



なぎさ公園に新設される施設

C. アーバンカーテン

高架下の利活用による連続スペース。ラーニングcommonsやワークプレイス・垂直緑化などを計画。



ミュージアムロードの部分イメージ

ミュージアムロードは、王子公園からなぎさ公園にかけてひとつながりのアートインデックスボードが連続的に配される。これはアートボードになると同時にシードプラザのガイドマップとなる。

